

平成 23 年 3 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 22 年 7 月 28 日

上場会社名 養命酒製造株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2540 URL <http://www.yomeishu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塩澤 太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 田中 英雄 (TEL) 03 (3462) 8125
 四半期報告書提出予定日 平成 22 年 7 月 30 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 23 年 3 月期第 1 四半期の業績 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23 年 3 月期第 1 四半期	3,158	0.5	14	△97.5	127	△81.5	80	△81.2
22 年 3 月期第 1 四半期	3,143	△13.0	572	△25.0	687	△22.2	428	△22.1

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23 年 3 月期第 1 四半期	2.69	—
22 年 3 月期第 1 四半期	13.57	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23 年 3 月期第 1 四半期	32,917	29,570	89.8	984.07
22 年 3 月期	33,867	30,346	89.6	1,009.91

(参考) 自己資本 23 年 3 月期第 1 四半期 29,570 百万円 22 年 3 月期 30,346 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22 年 3 月期	—	—	—	18.00	18.00
23 年 3 月期	—	—	—	—	—
23 年 3 月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成 23 年 3 月期の業績予想 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	6,770	11.1	310	△72.3	430	△65.9	280	△62.8	9.32
通 期	13,210	7.2	1,060	△34.0	1,270	△30.9	790	△26.2	26.29

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「その他」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

23年3月期1Q	33,000,000株	22年3月期	33,000,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

23年3月期1Q	2,951,333株	22年3月期	2,951,332株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

23年3月期1Q	30,048,668株	22年3月期1Q	31,603,205株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報.....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報.....	3
2. その他の情報.....	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	4
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要.....	4
3. 四半期財務諸表.....	5
(1) 四半期貸借対照表.....	5
(2) 四半期損益計算書.....	7
【第1四半期累計期間】.....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書.....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記.....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	9
4. 補足情報.....	9
(1) 生産、受注及び販売の状況.....	9

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）におけるわが国経済は、一部に回復傾向が見られたものの、厳しい雇用情勢や所得環境を背景とした個人消費の低迷が続き、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社の関連業界におきましても、業種・業態を越えた企業間競争の激化や流通における再編、生活防衛意識の高まりによる生活者の節約志向が続く厳しい状況となりました。

このような状況の中で、当社は、第2次中期経営計画（平成19年4月から平成23年3月まで）の最終年度に当たり、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、「少子高齢化社会に即した成長戦略の実現により企業価値を高める」ことを基本方針に、中期経営計画の主要戦略である「新たな成長事業の推進」に基づく新商品・新事業の基盤の構築にかかる諸施策に取り組むとともに、「養命酒」の収益構造の維持に努めました。

「新たな成長事業の推進」の取組みといたしましては、酒系市場におきまして、独自のハーブリキュールカテゴリーの開拓を目指し、平成22年3月に発売した「ハーブの恵み」の商品認知に努めました。また、4月には長野県の諏訪湖畔における社有地の有効活用を図り、飲食や物販事業を通して生活者の皆様に安全で健康的な食やサービスの提供を目指す健康生活提案型複合施設「くらすわ」を開業いたしました。

この結果、売上高につきましては、主力商品「養命酒」に加え、新商品「ハーブの恵み」と新事業「くらすわ」の売上により、3,158百万円（前年同期比0.5%増）となりました。利益面につきましては、新商品・新事業の基盤構築にかかる「ハーブの恵み」の商品認知のための広告宣伝費や「くらすわ」の開業に伴う費用等により、営業利益は14百万円（前年同期比97.5%減）、経常利益は127百万円（前年同期比81.5%減）、四半期純利益は80百万円（前年同期比81.2%減）となりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

①養命酒関連事業

主力商品「養命酒」につきましては、各施策の費用対効果等の再検証による広告活動の見直しを行い、販売促進活動を再構築するとともに各種媒体を通じた効率的な広告の実施や、広告と連動した店頭における販売促進活動を展開いたしました。また、海外におきましては、既存の東南アジア諸国を中心として各国の市場環境に即したマーケティング活動の展開や見直しに取り組み、「養命酒」の理解と知名度の向上に向け、店頭における販売促進活動の強化に努めました。

「ハーブの恵み」につきましては、集中的なテレビスポット広告や、味のイメージを伝えるためのサンプルプレゼントキャンペーンを実施するとともに、ラジオ、雑誌、交通広告等の広告媒体を積極的に活用し、「心と体の癒しのお酒」という商品コンセプトを30代から50代の女性を中心に訴求し、販売促進活動を展開いたしました。

以上の結果、「養命酒」の売上に「ハーブの恵み」、「家醸本みりん」、「ミネラルウォーター」、ドリンク剤「リオン」、インターネット通信販売サイト「養命酒本舗」等の売上を合算いたしまして、養命酒関連事業の売上高は3,050百万円となりました。

②施設運営事業

平成22年4月24日に開業いたしました「くらすわ」では、オープニングイベントや集客を図るための各種イベントを開催し、物販においては信州の地元の食材と当社の生薬に関する知見を活かした商品の販売を行うとともに、レストランにおいては地元の旬野菜や豚肉等の素材の良さを活かし、「おいしさ」や「安心・安全」に配慮した料理メニューの充実に努めました。

「くらすわ」の売上に駒ヶ根工場見学施設「養命酒健康の森」の売上を合算いたしまして、その売上高は73百万円となりました。

③その他

不動産賃貸事業の売上は、本店ビルのテナント賃貸収入などにより、35百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末における総資産は、前期末に比べ950百万円減少し、32,917百万円となりました。

流動資産は、前期末に比べ1,222百万円減少し、8,394百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が593百万円増加した一方で、配当金、法人税等の決算資金の支払いや投資有価証券(国債)の取得等により減少したことによるものであります。

固定資産は、前期末に比べ272百万円増加し、24,522百万円となりました。これは主に減価償却により有形固定資産が153百万円減少した一方で、保有株式の時価評価が低下したものの国債の取得により、投資有価証券が399百万円増加したことによるものであります。

流動負債は、前期末に比べ39百万円減少し、2,208百万円となりました。これは主に広告宣伝の実施によりその他に含まれる未払費用が220百万円増加した一方で、法人税等、賞与金の支払いにより、未払法人税等が126百万円、賞与引当金が118百万円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は、前期末に比べ135百万円減少し、1,138百万円となりました。これは主に退職給付引当金が30百万円、その他に含まれる長期預り金が57百万円それぞれ増加した一方で、保有株式の時価評価の低下により繰延税金負債が223百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前期末に比べ776百万円減少し、29,570百万円となりました。これは主に配当金の支払いにより利益剰余金が460百万円、その他有価証券評価差額金が316百万円それぞれ減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ230百万円減少し、2,943百万円となりました。

営業活動の結果減少した資金は、99百万円(前年同期比74.8%減)となりました。これは主に税引前四半期純利益105百万円、減価償却費198百万円、売上債権の増加額593百万円、未払費用の増加額234百万円によるものであります。

投資活動の結果増加した資金は410百万円(前年同期は147百万円の減少)となりました。これは主に有価証券の償還による収入1,500百万円、投資有価証券の取得による支出1,001百万円によるものであります。

財務活動の結果減少した資金は541百万円(前年同期比5.1%減)となりました。これは主に配当金の支払額541百万円によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期決算短信(平成22年5月12日公表)において発表いたしました業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③ 法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これによる営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,173,905	2,304,433
受取手形及び売掛金	2,936,406	2,343,325
有価証券	2,000,091	3,600,243
商品及び製品	379,942	555,992
仕掛品	174,425	185,940
原材料及び貯蔵品	372,634	359,047
その他	356,724	268,038
流動資産合計	8,394,130	9,617,021
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,116,659	4,187,013
その他(純額)	3,672,620	3,755,932
有形固定資産合計	7,789,280	7,942,946
無形固定資産		
	120,705	138,585
投資その他の資産		
投資有価証券	11,919,974	11,520,363
その他	4,699,210	4,655,248
貸倒引当金	△6,299	△6,299
投資その他の資産合計	16,612,885	16,169,312
固定資産合計	24,522,870	24,250,843
資産合計	32,917,001	33,867,865
負債の部		
流動負債		
買掛金	204,382	269,836
未払法人税等	26,854	153,585
賞与引当金	120,458	238,704
その他	1,856,417	1,585,241
流動負債合計	2,208,111	2,247,368
固定負債		
繰延税金負債	35,168	258,657
退職給付引当金	96,339	65,445
役員退職慰労引当金	50,850	50,850
その他	956,393	898,965
固定負債合計	1,138,751	1,273,918
負債合計	3,346,863	3,521,287

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	676,680	676,680
利益剰余金	29,987,362	30,447,444
自己株式	△2,880,187	△2,880,186
株主資本合計	29,433,854	29,893,938
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	136,283	452,639
評価・換算差額等合計	136,283	452,639
純資産合計	29,570,138	30,346,578
負債純資産合計	32,917,001	33,867,865

(2) 四半期損益計算書
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	3,143,862	3,158,894
売上原価	971,181	1,065,065
売上総利益	2,172,680	2,093,829
販売費及び一般管理費	1,600,020	2,079,493
営業利益	572,660	14,335
営業外収益		
受取利息	17,219	14,004
受取配当金	89,896	96,985
その他	15,749	8,559
営業外収益合計	122,865	119,549
営業外費用		
支払利息	8,048	6,694
その他	47	35
営業外費用合計	8,096	6,729
経常利益	687,430	127,154
特別損失		
固定資産除却損	976	238
投資有価証券評価損	—	21,064
特別損失合計	976	21,302
税引前四半期純利益	686,453	105,852
法人税、住民税及び事業税	271,000	33,000
法人税等調整額	△13,282	△7,940
法人税等合計	257,717	25,059
四半期純利益	428,735	80,793

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	686,453	105,852
減価償却費	178,992	198,072
賞与引当金の増減額(△は減少)	△130,597	△118,246
退職給付引当金の増減額(△は減少)	—	30,893
受取利息及び受取配当金	△107,116	△110,990
支払利息	8,048	6,694
有形固定資産除却損	976	238
投資有価証券評価損益(△は益)	—	21,064
売上債権の増減額(△は増加)	△325,181	△593,080
たな卸資産の増減額(△は増加)	△99,596	173,978
仕入債務の増減額(△は減少)	34,681	△65,454
未払費用の増減額(△は減少)	△168,796	234,446
未払消費税等の増減額(△は減少)	△9,733	61,712
その他	20,884	26,443
小計	89,015	△28,374
利息及び配当金の受取額	99,425	102,949
利息の支払額	△19,631	△20,444
法人税等の支払額	△562,724	△153,513
営業活動によるキャッシュ・フロー	△393,914	△99,383
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	—	1,500,000
有形固定資産の取得による支出	△146,574	△83,765
無形固定資産の取得による支出	—	△4,893
投資有価証券の取得による支出	△900	△1,001,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	△147,474	410,066
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,050,000	1,050,000
短期借入金の返済による支出	△1,050,000	△1,050,000
自己株式の取得による支出	△1,214	△0
配当金の支払額	△569,159	△541,209
財務活動によるキャッシュ・フロー	△570,373	△541,210
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,111,762	△230,527
現金及び現金同等物の期首残高	5,459,816	3,174,433
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,348,054	2,943,905

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

セグメント別売上高内訳表

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日
養命酒関連事業	3,050,021
養命酒	2,883,398
(うち輸出分)	(107,043)
その他	166,622
施設運営事業	73,488
その他	35,385
合計	3,158,894

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。